

マカバナ

基本ルール (Haapii Maka Bana)

目的

「マカバナ」は、ポリネシアの島での観光開発を行い、観光大臣を目指すゲームです。

準備

ボードを広げます。ボードには島が描かれており、4つの浜辺(ABCD) (茶色の道で分かれている)と4種類のエリア(砂浜、海、森、岩場) (棧橋で分かれている)に分かれています。また各エリアには模様(魚、タトゥー、花)が描かれたマスがあります。

各プレイヤーは自分の色の小屋10個と、浜辺/エリア/模様を表すカード11枚、塗料カード2枚、トーテム1個を持ちます。

スタートプレイヤーを決定します。

注：3人プレイでは *Bikini* を使いません。

手順

シーズンを繰り返して、4箇所ある浜辺を開発します。各シーズンは、以下のフェイズを繰り返してゲームは行われます。

1、プロジェクトの決定

各プレイヤーは手札の浜辺/エリア/模様を表すカードからそれぞれ1枚ずつ選んでマスを指定し、そこに小屋を建設しようとするか、これに加えて塗料カードも出して他の小屋を略奪するかを選びます。建設する場合は3枚のカードを裏向きに重ねて自分の前に出します。

(第2フェイズで表向きにするカードを1枚決め、一番上に伏せて置くとスムーズでしょう)

略奪の場合は上記に加え塗料カードを表向きにして出します。

2、情報開示

各プレイヤーは自分のプロジェクトのカードのうち1枚を選び、全員同時に表向きにします。

3、トーテムの配置

スタートプレイヤーから順番に、ボードのマスにトーテムを配置します。トーテムは、空き地に配置すればその

マスに小屋を建築できず、自分の小屋に置けばその小屋を略奪から守ることができます。他人の小屋を守ることはできません。

4、プロジェクトの実行

スタートプレイヤーから順番に、フェイズ1で伏せた残りのカードを公開し、建設や略奪が可能かどうかを判定します。

建設の場合は、カードで指定したマスにトーテムも小屋もなければ、そのマスに小屋を置くことができます。

略奪の場合は、指定したマスにトーテムがなく、他プレイヤーの小屋があれば成功です。指定したマスに置かれている小屋を取り除いてプレイヤーのストックに戻し、代わりに自分の小屋を置きます。

略奪を成功させたプレイヤーは塗料カードを捨て札にします。

以上で1シーズン終了です。左隣のプレイヤーがスタートプレイヤーになります。

略奪を成功させた塗料以外のカードは手元に戻ります。

ゲームの終了

プレイヤーの誰かが小屋を9個置くか、4箇所ある浜辺のいずれかが小屋やトーテムで埋まった場合、次のシーズンが最後のシーズンとなります。最後のシーズンは塗料カードを使えません。

ゲームが終了したら得点計算を行います。

・小屋の得点

単独である小屋に1点入ります。同じ色の小屋が辺で接している場合、それらはグループと扱いボーナス点になります。なお小屋同士の間には道(エリアや浜辺を分けているもの)があっても接しているとみなします。1つのグループの1個目の小屋は1点、2個目の小屋は2点、3個目以降は1個3点入ります。

・浜辺の得点

各浜辺について得点を加算します。各浜辺に置かれた小屋の数を数えます。その浜辺で単独トップのプレイヤーには4点入ります。2人が同数トップなら2点ずつ入ります。同数トップが3人以上なら得点なしです。

最も点数の高いプレイヤーが勝ちます。タイブレイクはありません。

上級ルール (Maka Bana Mao)

このルールでは自分のプロジェクトのカードが 3 枚である必要はありません。3 枚より少ない枚数のカードや多い枚数のカードを出す「不正」ができますが、不正を行うと告発される可能性があります。

少ない枚数を出す

プロジェクトの実行時、建設の選択肢が増えます。少ない枚数を出すときは塗料カードを出せません。

多い枚数を出す

2 回建設/略奪できます。

このルールでは、略奪に必要な 4 枚セット（浜辺/エリア/模様を表すカード 3 枚+塗料カード）を出した場合も「多い枚数」とみなされます。

カードの枚数が少なくても多くても「不正」とみなされ告発の対象となります。ぴったり 3 枚のプロジェクトは告発の対象とはなりません。

手順

1、プロジェクトの決定

手札から好きな枚数のカードを伏せて出します。1～13 枚出せます。1 枚（何のカードでも構いません）は見えるように伏せて出し、それ以外は手で隠します。

2、情報開示

見えるように伏せて出した 1 枚を同時に公開します。

告発フェイズ

不正しているプレイヤーを告発し、追放することができます。告発を宣言できるのは 1 ラウンドに一人だけです（早いもの勝ち）。告発する人がいないようであれば、スタートプレイヤーが次のフェイズに移行することを宣言しますが、十分間を取るようになしてください。告発した場合、告発したプレイヤー（告発者）か告発されたプレイヤー（被告）のどちらかが追放されることとなります。

告発者と被告は伏せたカードの枚数を公開します。

不正の程度が高い方がこのラウンドから抜けます。3 枚から離れている（多くても少なくても）方がより不正していることとなります。程度が同じ場合は告発者が抜けます。

被告のほうが不正の程度が高く、かつ略奪を選んでいたら、出していた塗料カードは捨て札になります。被告が略奪対象にした小屋を確認します。

・略奪対象が告発者の小屋だった場合

告発者は被告の小屋を 1 つ略奪します。これは第 4 フェイズの告発者の手番の前に行います。

・略奪対象が告発者の小屋ではなかった場合

被告は告発者に逆襲できます。告発者は自分の小屋を 1 つ選びます。被告は望むならその小屋を略奪することができます。略奪しない場合、塗料カードは被告の手札に戻り、捨て札となりません。

3、トーテムの配置

基本ルールと同じですが、告発で追放されたプレイヤーはトーテムを置きません。

4、プロジェクトの実行

基本ルールと同じです。

2 枚以下のプレイヤーは自分の手番のときに足りない分を補うようにカードを出し、小屋を建設できます。

4 枚以上出したプレイヤーは 2 個の小屋を建設/略奪できます。出したカードの組み合わせで建設できる/略奪できるところだけです。1 個目の小屋と 2 個目の小屋に対し、出したプロジェクトカードを使い回すのは OK です。ただし略奪は 1 回に対し 1 枚の塗料カードが必要で、使い回しはできません。

ゲームの終了

基本ルールと同じです。